

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告数49件で、6月の208件から激減しています。

小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向)

報告総数4888件(前月比 1. 1、前年比 1. 6)でした。前月比は変わりありませんが、前年同月で見れば、昨年の2996件が4888件となり1. 6倍に増加しています。これは、手足口病が1912件と前年比26. 9(昨年71件)と大きく増加したことに伴うものです。季節性流行の高い疾患ではありますが、増加が目立ちました。一方でインフルエンザの報告数は208から49件まで激減し今年最小の報告数でした。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告数23件、前月10件から増加しています。菊池から18件(3. 6)の報告があり目立ちます。年齢は6ヶ月から1歳が8件ずつと過半数を占めていますが、6ヶ月以下と4歳にも1件ずつ報告があり、昨年同月は1件でしたので、これからは注意が必要と考えます。

※()書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

2. 咽頭結膜熱: 報告数118件(前月比 1. 0、前年比 1. 1)と例年と同様です。山鹿からの報告が15件(7. 5)と多く、天草(5. 5)、有明(5. 0)が続いています。1~7歳と幅広く報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数192件(前月比 0. 5、前年比 0. 9)です。菊池68件(13. 6)、宇城26件(6. 5)が多いようです。4~5歳を中心として報告があります。例年並みの報告でこれから減少すると考えられます。
4. 感染性胃腸炎: 報告数1056件(前月比 0. 9、前年比 1. 1)と例年並みの推移で減少傾向にあります。阿蘇を除き、各地から二桁以上の報告があります。菊池231件(46. 2)・有明201件(40. 2)・山鹿64件(32. 0)が多いようで、少ないのは、阿蘇2件(1. 0)・御船17件(5. 7)・天草32件(8. 0)です。三歳以下は三桁の報告があります。
5. 水痘: 報告数195件(前月比 0. 5、前年比 1. 4)と、報告は減少しました。菊池49件(9. 8)・山鹿18件(9. 0)からの報告が多いようです。1~4歳を中心とした流行です。減少に転じましたが、予防可能な疾患であり、1歳過ぎれば接種可能ですので、予防接種を提示した方が良いでしょう。
6. 手足口病: 報告数1912件(前月比 1. 4、前年比 26. 9)と、昨年この時期に71件と少なかったのが今年が多いようですが、一昨年に比べれば半数です。季節的には例年どおりの推移と考えられます。特に多いのは、菊池330件(66. 0)・人吉196件(65. 3)・水俣120件(60. 0)です。以下熊本694件(43. 4)・天草170件(42. 5)と続きますが、八代59件(14. 8)・御船6件(2. 0)・阿蘇3件(1. 5)以外は、県下から三桁の報告があります。6ヶ月~2歳を中心としています。他の年齢でも報告は多いようです。原因ウイルスとして、コクサッキーA6型が優位に分離されています。今後、爪甲脱落症などの出現に注意が必要です。

7. 伝染性紅斑: 熊本と菊池から1件ずつの報告数2件(前月比 0.4、前年比 0.2)です。
8. 突発性発疹症: 192件(前月比 0.9、前年比 1.2)と、夏期にやや増加するという例年同様の動きにて推移しています。熊本・菊池・水俣・有明・宇城・天草からは、二桁の報告でした。阿蘇と御船からの報告はありませんでした。
9. 百日咳: 報告は八代からの1件のみで、6ヶ月から1歳の年齢層です。予防接種年齢ですので、地域での予防接種の啓蒙が必要です。成人の報告はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ: 報告数946件(前月比 1.9、前年比 1.0)で、推移としては例年同様です。菊池231件(46.2)・宇城136件(34.0)が特に多いようです。阿蘇・御船・人吉以外は定点あたり二桁の報告です。
11. 流行性耳下腺炎: 報告数18件(前月比 0.5、前年比 0.1)と、H.22年5月以降の流行もほぼ終息したようです。山鹿・八代・人吉以外は、1～3件の報告があります。報告の年齢は、全て1歳以上ですので、予防接種による流行が期待でき、引き続き啓蒙が必要と考えます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎: 報告数47件(前月比 1.4、前年同月 0.6)と前月よりも増加しています。地域別では熊本42件、菊池1件、有明2件、天草2件の報告です。今月も20～49歳代に多発しており、全体の62%を占めています。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数 49件(前月比 0.8、前年比 1.2)で、前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性17件、女性32件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は20～64歳に幅広く見られ、女性は15～44歳に見られます。地域別は、熊本が31件、次いで有明6件、菊池5件、御船4件、八代2件、宇城1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数 16件(前月比 0.7、前年比 1.5)で、前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性8件、女性8件でした。年齢別は、男性は15～54歳に見られ、女性は15～64歳に幅広く見られます。地域別は、熊本が10件、次いで菊池、八代各2件、御船、有明各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ: 報告数 11件(前月比 1.6、前年比1.4)で、前月比、前年比共に増加しています。男女別は、男性6件、女性5件です。年齢別は、男性は25～49歳、女性は15～29歳に見られます。地域別は、熊本が6件、次いで御船2件、八代、有明、宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症: 報告数17件(前月比 1.1、前年比 2.8)で、前月比、前年比共に増加しています。男女別は、男性14件、女性3件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は15～69歳に幅広く見られ、女性は15～29歳に見られます。地域別は、熊本が9件、次いで八代5件、有明各2件、宇城1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 1件(前月比 -, 前年比 0.5)の報告がありました。
阿蘇1件で、70歳以上:1件でした。
2. 無菌性髄膜炎: 5件(前月比 5.0、前年比 1.3)の報告がありました。
熊本5件で、1~4歳:1件、5~9歳:2件、15~19歳:1件、30~34歳:1件でした。
3. マイコプラズマ肺炎: 7件(前月比 0.6、前年比 0.5)の報告がありました。
熊本3件、有明1件、天草3件で、年齢は1~4歳:1件、5~9歳:2件、10~14歳:1件、
50~54歳:1件、70歳以上:2件でした。
4. クラミジア肺炎: 報告ありませんでした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:
30件(前月比 1.4、前年比 0.7)の報告がありました。
熊本9件、山鹿6件、菊池1件、阿蘇4件、八代1件、水俣5件、人吉3件、有明1件で、
年齢は0歳:1件、1~4歳:5件、5~9歳:1件、45~49歳:1件、55~59歳:1件、
65~69歳:1件、70歳以上:20件でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:
5件(前月比 2.5、前年比 0.7)の報告がありました。
熊本1件、山鹿1件、人吉1件、有明2件で、1~4歳:2件、15~19歳:1件、
70歳以上:2件でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:
報告ありませんでした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:
報告ありませんでした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:18件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:21件
- 4類感染症: 日本紅斑熱:2件
レジオネラ症:1件
- 5類感染症: 侵襲性肺炎球菌感染症:2件
風しん:2件